



撮影：ウエストロック 調布店

終わりになき“壁”に挑み続ける。

杉並総合高等学校*ボルダリング 盛田康平さん

2020年東京五輪では「スポーツクライミング」の1種目として実施されるボルダリング。実は日本には世界トップクラスの実力者がそろい、目覚ましい活躍をみせている。その中で、京王沿線から五輪出場を目指すのが、都立杉並総合高等学校3年生の盛田康平さんだ。

「ボルダリングとの出会いは、約10年前。色々なところに登るのが好きだった僕に、母が勧めてくれたんです」

すぐに魅力に取りつかれ、練習に励んできた。現在では、週に4〜5回、平均3時間、学校が休みの日は半日近くトレーニング。トップレベルの大会に数多く出場し、経験を積んでいる。盛田さんを取りこにしたボルダリングの魅力とは？

「登れたときの達成感はもちろんですが、一筋縄ではいかない課題(コース)を、どうやって攻略しようか考えるのが楽しいですね。観る時に注目してほしいのは、人間離れしたダイナミックな動きや、一見とても登れそうにない壁を登っていく技術など。一度大会を観ると、面白さがわかるはず！」

ボルダリングに打ち込むのはもちろん、高校生である以上は学業や部活動もおろそかにはできない。

「学校生活と競技の両立は、やはり大変です。でも、ボルダリングの時間に学校のことを考えていては集中できませんし、逆も同じ。常に目の前に替えるを意識しています」

住まいも学校も京王沿線の盛田さんは、沿線のボルダリングジムに足を運ぶことも。この日も西調布のジムで汗を流した。

「沿線には小さめのジムが多いです。初心者も入りやすいので、入門におすすめですよ」

五輪まであと3年。「ボルダリングは発展途上のスポーツ。登り方などの進化に置いていかなければ、常に先を目指して前進し続けたいです」と意気込む盛田さん。3年後、どんな課題にも果敢に挑むその姿を見るのが楽しみだ。